

2003(平成 15)年度

日本語教育研究コース

第 2 期

〔2003 年 10 月～2004 年 3 月〕

募 集 要 項

社団法人日本語教育学会

1. コースの目的

海外および日本国内において、日本語学習者の学習目的や学習環境はますます多様になってきています。日本語教育学会は、このような状況に積極的に対応するために、現職者を対象とした「日本語教育研究コース」を実施しています。

この研修は、海外で日本語教育に従事する意志を持った人々を対象として、海外諸機関で日本語の学習指導のみならず、カリキュラム編成、教材作成、教師研修への支援等に携わる人材を養成することを目的としています。従って研究能力、実務能力を併せ持った教師を育成することを目標にコース内容を設定しています。

この事業は国際交流基金の助成を受けて行うものです。

2. コース内容

教師が日ごろの自分の役割を捉え直し、新しい知識、技術を修得して次の展開を図る、また課題を探求する機会とすることができるよう、今期は「研究論文コース 論文基礎」、「テーマ別研究コース 音声教育 - 教師は何ができればならないか -」、「海外アドバイザー活動研究コース」、「オンライン実践研究コース」を設けます。

なお、複数のコースを並行して受講することはできません。

(1) 研究論文コース「論文基礎」

「論文基礎」では、日本語教育の現場経験やデータなどを持っていて、それを論文にまとめてはみたいものの、その手法などがわからない人のために、テーマの選定、研究の方法、論文の構成要素などを、先行研究論文を題材として講師とともに学ぶ。

コーディネーター：柏崎雅世，馬場眞知子，文野峯子

講師：石黒圭，菅原健介，杉本明子，西原鈴子，横溝紳一郎，他

日 程（予定）

回	月 日	活 動 内 容	講 師
1	10/17(金)	日本語教育研究概論 (前半はテーマ別研究コースと合同)	西原鈴子
2	10/24(金)	気づきから論文へ(1)	石黒圭
3	10/31(金)	気づきから論文へ(2)	石黒圭
4	11/7(金)	教室活動から論文へ(1)	横溝紳一郎
5	11/14(金)	教室活動から論文へ(2)	横溝紳一郎
6	11/21(金)	研究計画中間発表	コーディネーター 柏崎・馬場・文野
7	11/28(金)	観察から論文へ(1)	
8	12/5(金)	観察から論文へ(2)	
9	12/12(金)	調査から論文へ(1)	杉本明子
10	12/19(金)	データから論文へ(1)	菅原健介
11	1/9(金)	データから論文へ(2)	菅原健介
12	1/16(金)	研究計画発表会	コーディネーター 柏崎・馬場・文野

(2) テーマ別研究コース「音声教育 - 教師は何ができればならないか - 」

音声指導を望む学習者は非常に多い。しかし、そのニーズに教師は応えられていないのではないだろうか。そして、その理由として、教師の能力、知識、考え方などの問題も考えられる。そこで「テーマ別研究コース 音声教育 - 教師は何ができればならないか - 」では、実際の授業を振り返り、音声教育の現状と問題点を考え、さらにこれからの音声教育の方法を探る。

コーディネーター：河野俊之

講師：小河原義朗，河野俊之の2名が基本的に毎回講師を務めます。

回	月 日	内 容
1	10月17日(金)	前半：「日本語教育研究概論」(研究論文コースと合同) 後半：オリエンテーション 本研修で自分は何を得て、どうなりたいのだろうか
2	10月24日(金)	現状と問題点(1) 音声教育の何が問題なのだろうか、なぜそんな問題が起こるのだろうか
3	10月31日(金)	現状と問題点(2) 日本語教師として自分は何をしたいのだろうか、なぜそうしたいのだろうか
4	11月7日(金)	現状と問題点(3) 今までの研究を知ること、問題はどうか解決できるのだろうか
5	11月14日(金)	何を教えるか(1) 学習者にはどのような音声的な誤用があるのだろうか
6	11月21日(金)	何を教えるか(2) 学習者の誤用は全部教育対象とするべきなのだろうか
7	11月28日(金)	どう教えるか(1) 音声教育は文法、漢字など、ほかの教育と同じなのか、違うのか、違うのなら、何がどう違うのか、なぜ違うのか
8	12月5日(金)	どう教えるか(2) 音声教育のいい教材がないうちは音声教育はできないのだろうか
9	12月12日(金)	どう教えるか(3) 音声教育のいい教材を自分で作って使ってみたくはないか
10	12月19日(金)	何を学ぶか(1) よい音声教育をするために自分は何を学ぶべきか
11	1月9日(金)	何を学ぶか(2) よい日本語教育をするために自分は何を学ぶべきか
12	1月16日(金)	まとめ 本研修で自分は何を得て、どうなったのだろうか

なお、毎週、簡単な講義レポートなどを提出していただきます。

(3) 海外アドバイザー活動研究コース

近年、海外における日本人日本語教師の役割や求められる資質・知識・技能が多様化してきている。従来のように母語話者教師として実際に学習者に対する教育に携わるだけでなく、教材開発や同僚教師の指導、日本語教育情報の提供、現地のネットワーク作りなど多岐にわたる役割が求められるようになってきている。そして、実際にそうした役割を果たしている教師も多い。こうしたアドバイザー的な役割・存在への要請は今後ますます高まると考えられる。

本コースでは、このような海外で活動する日本語教育アドバイザーの資質や、アドバイザーに必要な知識・経験・姿勢とはどのようなものか、そしてそれらを身につけるにはどうしたらよいかを探求する。特に、それぞれの教育環境における問題・課題の発見、問題解決・課題達成方法の探索、周囲と協力しながら限られた条件・状況の中で目標達成、問題解決を行う能力を、参加者自らの体験を通して考え、獲得することを目指す。具体的には、グループでプロジェクトを企画・立案し、その準備、実施を課題とする。

上に挙げたアドバイザーに求められる能力・資質は、国内で活動している主任講師、コーディネーター等の役割にも共通するものが多い。また海外と国内の日本語教育は様々な面でつながりのあるものである。そこで、今回のコースでは国内の学校や地域に関わるテーマも扱うこととしたい。

これまでコースで行われたプロジェクト例

「インターネットを利用した日本語教育の可能性 海外で教材を作るときの提案」

「海外で活動する日本語教師のためのハンドブック」

「異文化コミュニケーション能力養成を重視した「観光日本語」について考える」

「カリキュラム研究」

「自分の日本語教育ネットワークを振り返る」

「共に学ぶ教師研修 - ロールプレイを使って - 」

「状況把握とアドバイス - 海外アドバイザーのために - 」

「より良い日本語教師研修を目指して」

「文化理解のためのワークショップ」

「日本語教育環境マップ作成」

なお、このコースは、グループ活動を主とする内容のため、最小催行人数を8名とします。

(本コース修了者が国際交流基金の海外派遣に直接結びつくものではありません。)

コーディネーター：加納陸人，八田直美，古川嘉子，三原龍志

日程案

	月 日	活 動 内 容
1	10/17(金)	オリエンテーション・ワークショップ体験
2	10/24(金)	プロジェクト準備(1)
3	10/31(金)	講義：春原憲一郎「環境デザイナーとしてのアドバイザー」 プロジェクト準備(2)
4	11/7(金)	アドバイザー経験者に聞く プロジェクト準備(3)
5	11/14(金)	プロジェクト準備(4)
6	11/21(金)	文献講読 プロジェクト準備(5)
7	11/28(金)	学位プログラム研修生と語る プロジェクト準備(6)
8	12/5(金)	講義 プロジェクト準備(7)
9	12/12(金)	プロジェクト準備(8)
10	12/19(金)	プロジェクト準備(9)
11	1/9(金)	プロジェクト実施(1)
12	1/16(金)	プロジェクト実施(2)
13	1/23(金)	プロジェクト実施(3)
14	1/30(金)	報告書作成
15	2/6(金)	まとめ

注) 活動内容の順序は変更の可能性あり。

(4) オンライン実践研究コース

本コースは全てインターネット上で実施する，世界中どこからでもアクセスできるコースである。コース中，テーマ別にメーリングリストを利用してグループで主体的に実践研究を進める。本コースは受講生がテーマに関連した自分自身の実践活動を内省し，〈内省的実践家〉として成長するとともに，多様な教育現場，文化環境にいる仲間と協働でコースを運営する能力を育成すること，の2点を目標とする。活動内容は，文献講読，及び自己の実践に関する内省を，他の受講生やコーディネーターとメーリングリスト上で話し合い，議論を重ねながら，進めていくこととする。

今回の実践研究のテーマは，「外国人児童・生徒のための日本語教育」および「日本語教育と〈文化〉」とする。

コースの進め方

コースの具体的実施方法，運営方法，課題図書等を受講者に通知：10月17日まで

コース開始日：10月17日

終了日：2月6日

コーディネーター：

「外国人児童・生徒のための日本語教育」池上摩希子，金田智子，谷啓子

「日本語教育と〈文化〉」春原憲一郎，富谷玲子，他

3. 期間，曜日，時間

2003年10月17日（金）～2004年3月5日（金） 午後6時30分～9時30分

(1) 研究論文コース「論文基礎」 金曜日

講義は10月17日から1月16日までで，その後2月13日までに修了レポートを提出する。3月5日修了式予定。

(2) テーマ別研究コース「音声教育 - 教師は何ができればならないか - 」 金曜日

講義は10月17日から1月16日までで，その後2月13日までに修了レポートを提出する。3月5日修了式予定。

(3) 海外アドバイザー活動研究コース 金曜日

講義は10月17日から2月6日までで，その後2月13日までに修了レポートを提出する。3月5日修了式予定。

(4) オンライン実践研究コース 金曜日

コースは10月17日から2月6日までで，その後2月13日までに修了レポートを提出する。3月5日修了式予定。

注意：並行して複数のコースを受講することはできません。

4. 場 所

(1) 研究論文コース「論文基礎」

(2) テーマ別研究コース「音声教育 - 教師は何ができればならないか - 」

（財）言語文化研究所附属東京日本語学校

東京都渋谷区南平台町16-26（渋谷駅南口より徒歩10分）

(3) 海外アドバイザー活動研究コース

国際交流基金日本語国際センター

埼玉県さいたま市北浦和5-6-36（京浜東北線北浦和駅より徒歩8分）

5. 募集人員

(1) 研究論文コース「論文基礎」 15名

(2) テーマ別研究コース「音声教育 - 教師は何ができればならないか - 」 15名

(3) 海外アドバイザー活動研究コース 15名

このコースの最小催行人数を8名とします。

(4) オンライン実践研究コース 15名

6. 応募条件

次の を共に満たす者。

原則として海外あるいは国内の日本語教育機関で3年以上の教師の経験を有する者。

近い将来海外の日本語教育機関で日本語教育に従事する意志を有する者。

なお，日本語教育専攻またはその他関連分野専攻の大学院修了者が望ましい。また，アドバイザーコース受講希望者は海外での教育経験があることが望ましい。

7. 応募手続

(1) 提出書類

受講申請書

表形式の申請書かテキストのみの申請書かどちらを使用しても可。日本語教育学会ホームページからダウンロードすることもできます。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/nkg/menu-kenshu.htm>

コース別に課された課題作文

「研究論文コース 論文基礎」

書式：A4判 1,200字程度。右上に希望コース(「研究論文コース」)および氏名を明記すること。

課題：現在取り組もうとしている研究のテーマなどについて具体的に書いてください。

「テーマ別研究コース 音声教育 - 教師は何ができればならないか - 」

書式：A4判 1,200字程度。右上に希望コース(「テーマ別研究コース」)および氏名を明記すること。

課題：音声教育についてご自分のこれまでの実践の場で見出された問題点について書いてください。その問題点に関して、今までどのような取り組みをしてきたかについても触れてください。

「海外アドバイザー活動研究コース」

書式：A4判 1,200字程度。右上に希望コース(「アドバイザーコース」)および氏名を明記すること。

課題：アドバイザーの役割とはどのようなものかと考えるか、について書いてください。

「オンライン実践研究コース」

書式：A4判 1,200字程度。右上に希望コース(「オンライン実践研究」)希望テーマ(「外国人児童・生徒のための日本語教育」または「日本語教育と<文化>」、および氏名を明記すること。

課題：ご自身のこれまでの実践の場で見出された問題点についてテーマに則して書いてください。その問題点に関して、今までどのような取り組みをしてきたかについても触れてください。

4コースいずれの場合も、これまでに日本語教育研究コースを受講したことのある方は前回受講後の取り組みについてもできるだけ述べてください。

(2) 受験料 3,000円

支払い方法

郵便小為替

銀行送金(振込人名は受講申請者本人とし、氏名の前に「研究コース」と入力してください。)

口座名義：(社)日本語教育学会

三井住友銀行神田支店 普通預金 6426065

クレジット(海外からの送金の場合のみ。まず下記(3)提出先に連絡しクレジット支払申込用紙を取り寄せてください。)

[受験料は応募者の理由による場合には返却しません。]

(3) 書類提出先

社団法人日本語教育学会 教師研修委員会

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-1 東方学会新館

電話 03-3262-4291 FAX 03-5216-7552

〔注：提出書類は返却しません。〕

kyoshikenshu@nkg.or.jp(メールで送る場合はメールタイトルを「研究コース応募」としてださい。)

(4)申請方法および締切日

次の締切日までに書留郵便またはメール・FAXで送付してください。

2003(平成15)年9月10日(水)必着

募集締切を8月27日としておりましたが、9月10日まで応募を受け付けることといたしました。

8. 選考

(1)研究論文コース，テーマ別研究コース，海外アドバイザー活動研究コース

第一次選考 書類選考

結果通知：2003(平成15)年9月16日(火)に発送。

第二次選考 面接

面接日：2003(平成15)年9月20日(土)

時間は第一次選考結果の通知の際にお知らせします。

面接会場：国際交流基金国際会議場

結果通知：2003(平成15)年9月22日(月)に発送。

(2)オンライン実践研究コース

書類選考のみ

結果通知：2003(平成15)年9月22日(月)に発送。

〔選考内容等についての照会にはお答えいたしかねます。〕

9. 受講料

各コース40,000円。ほかに教材費実費負担あり。

〔納入された受講料は、開講後は事情のいかんにかかわらず返却しません。〕

10. 修了

(1)研究論文コース

修了課題：研究計画書。目安はA4判用紙4～5枚(400字詰原稿用紙に換算して20枚)程度。

(2)テーマ別研究コース

修了課題：レポート。目安はA4判用紙4～5枚(400字詰原稿用紙に換算して20枚)程度。

(3)海外アドバイザー活動研究コース

修了課題：グループプロジェクトの報告書及び個人報告書作成(後任者への引継ぎ，教師・アドバイザー/コーディネーターとしての内省)。枚数等はコース実施中に指定。

(4)オンライン実践研究コース

修了課題：レポート(分量、内容等コース中に告知)。